

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

山梨県山梨市

学校名

山梨県立日川高等学校

学校のURL

<http://www.hikawa.kai.ed.jp/>

2. 学校紹介

学級数

【普通科】全学年各7学級

【合計】21学級

児童生徒数

【全生徒数】827人（平成23年11月1日現在）

（内訳：1年生278人、2年生277人、3年生272人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育方針】文武両道の教育を推進する

【目指す生徒像】「人間としての在り方生き方を意欲的に追究する生徒」「人生をよりよく生きようと努める生徒」「自ら磨き、高めようとする生徒」「自ら考え、判断し、行動できる生徒」

【人権教育に関する指導重点】「人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図る能力や態度、豊かな人間性と社会性、創造性を育む」

人権教育にかかる取組の全体概要

学校の教育活動全体を通じて実践

- * 道徳教育の充実に向けた取り組みとして実施した。結果として「学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に」進められた。
- ・各教科で「人間としての在り方生き方を深め、心を育てる授業」を実践する。
- ・特別活動（HR活動・生徒会活動・学校行事）部活動のそれぞれの場面で目標設定し実践する。「自己を生かしお互いを理解しあう」、「規律の遵守、思いやり」「帰属意識、感謝と思いやり」等。
- ・進路、年次、生徒指導で「自らを磨き、高める生徒の育成」のための連携。保護者・同窓会、地域との連携
- ・生徒理解と支援のための協力体制の確立。地元貢献できる人材の育成。

3. 特色ある実践事例の内容

各教科における「人間としての在り方生き方を深め、心を育てる授業」の取組

(取組のねらい、目的)

- 学校の教育活動の中心は各教科の授業である。生徒にとっては、授業は学校で過ごす時間のうち、最も多くの部分である。各教科の授業内で「人間としての在り方生き方を深め、心を育てる授業」を行うことは、学校の主たる部分で人権に配慮した取り組みが実践されることと考え実施した。

(取組を始めたきっかけ)

- 普通科高校における人権教育の取り組みを探る中で、生徒にとって、主たる学校生活である各教科の授業の活用が必要だと考えた。

(取組の内容)

- 全教師「1人1指導案1実践」に取り組む。

*表内では、ロングホームルームをLHR、「総合的な学習の時間」を「総合」と示す。

教科・科目	主観名 【資料名】	内容項目	ねらい 【道徳的視点】
国語	友情と恋愛 【夏目漱石『こころ』】	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	同じ女性に恋愛感情を抱いた友人同士は、友情と恋愛のどちらを及び尊重するのが望ましいか、について考える。
地理歴史	自然環境と防災 【『山梨県及び市町村作成の防災ハザードマップ』】	自然愛護、生命尊重、公德心・社会連帯	自然を愛護し、畏敬の念を見いだす。また、生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する。
公民	青年期の意義と自己形成の課題 【悩みと相談】	自己の再認識、在り方生き方、友の大切さ	悩みという視点から、自己を見つめ、充実した生き方を模索する。悩みを相談できる仲間との信頼や友情を深める事の大切さに気づく。
数学	誕生日問題を考える 【確率】	他者理解	自分の考え方をまとめ発表することができる。また、他者の意見を認め、お互いを高め合うことができる。
理科	いろいろな遺伝現象 性染色体と性決定 【平成16年高校講座生物第20回染色体と遺伝子】	生命尊重、自然現象の理解	ヒトは、親から受け継いだ遺伝的な性質が一人ひとり異なることを知り、各々がかけがえない存在であることを理解する。
英語	人間として正しいこと 【Visas for Life】	正義、平等	杉原千恵の生き方をつうじて、何故人として正しいことなのかを考えさせる。
保健	自分の心を知る 【心のチェックノート】	健康	自分の心を知ることにより、感情コントロールが意識できるようになる。
体育	ペースランニングで自分の心身への効果を知る 【心拍数と運動強度に関する資料、感情と脳ホルモンに関する資料】	自己の向上	運動が脳のホルモンに影響することを理解し、感情コントロールの一つの方法として日常生活に少しでも活用できるようになる。
家庭	育つ・育てる・育ち合う保育 【親の役割と人間形成】	命を育むこと、命の重さ、命への責任	人間形成の大切さ、生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する。
情報	無料なら配ってもいいの？(著作権・音楽配信) 【『高校生のための著作権教材』文化庁】	正義、社会の秩序と規律	情報を発信するにあたっての責任について考えさせる。
芸術	追求し続ける価値 【タッシェン「フィンセント・ファン・ゴッホ」から】	自己を見つめ、個性伸長、理想の実現、個性尊重、他者理解	理想を追求し、努力し続けることの価値と、人との繋がり大切さについて考えさせる。

LHR（ロングホームルーム）と「総合的な学習の時間」の活用の取り組み

（取組のねらい、目的）

- ・学校教育における人権教育の目標の一つである「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになる」ための実践として、学級単位での取り組みを充実させた。

（取組を始めたきっかけ）

- ・各教科では不十分な部分を、全校で取り組むための教育課程上の位置づけとして、LHRと「総合的な学習の時間」を活用することとした。

（取組の内容）

- ・LHRと「総合的な学習の時間」を一部利用して、学級の中での他者理解、自己理解を目的とした活動を展開した。
- ・エンカウンターを利用した話し合い、ブレインストーミングを利用した意志決定方法、マインドマップを利用した将来設計を実施。
- ・以下は1年次計画の一部抜粋

LHR	担任	「自分のことをもっと知ろう」 (個性伸長)	自分を発見するということは、自分の長所を見出すことと捉え、自分自身の生きる原動力とする。長所をもとに「自分像」を描く。	自己理解を促進し、第三者の目で自分を見られるようにすることともに、自分自身に対する見方・受け止め方の傾向・片寄りを知る手立てとする。
総合	担任			
LHR	担任	「私が最近考えること」 (向上心・理想の実現・個性伸長)	面と向かって話しにくいことも、文章でなら書きやすい。書いたことを読み合うことで、口に出しにくい「弱い、臆く、非効率」な部分をもつものが自分だけではないことに気づき、自分と他者を理解し、受け入れることをねらいとする。	1年次の後期になって、高校生活にもだいぶ慣れた時期に多くの生徒が悩みを持っている。その悩みは自分だけのものではなく、多くの生徒が共有することを知ること、これからの生活の助けとしたい。
総合	担任			

- ・以下は2年次計画の一部抜粋

LHR	担任	「日川高校を紹介しよう」 (他者理解・愛校心)	ブレインストーミング及びKJ法的な手法を用い、様々な意見をまとめて一つの文脈につなぎあわせることを学ぶ。さらに、創造的な発想法について体験し、論理的な表現方法も身に付ける。	修学旅行を前にして、集団の多種多様な意見を一つにまとめる作業から他者の意見を受容する姿勢を養い、異なる意見を受け入れ、集団の意見としてまとめる大切さを育てる。
総合	担任			
LHR	担任	「考え方を変えれば前に進める」 (個性伸長)	具体的な非論理的な思考を取り上げて、自己卑下、事恩の恐怖感、絶望感、他人への理不尽な攻撃、悪い方への一般化を学習する。	見方・受けとめ方・考え方の頑固性、独断性、絶対性、盲目性に着目しながら心理的健全について理解をすすめる。
総合	担任			

1部1ボランティア活動（地域貢献）の取り組み

（取組のねらい、目的）

- ・教育方針に、「文武両道の教育を推進する」を掲げた本校は、部活動が大変盛んである。学年を超えた部活動単位で、地域に出たボランティア活動の実践により、学校教育における人権教育の目標の一つである「・・・具体的な態度や行動に現われる



- ・語学部：姉妹校（KLB校）と日川小学校を訪問し、交流を深める。等

ようにすること」の実現と、人権教育を通じて身に付けたい資質・能力の育成につなげる。

（取組を始めたきっかけ）

・生徒が主体的に取り組めることを考えて、部活動単位での実践を試みた。

（取組の内容）

・体操部：幼稚園、子どもクラブの子どもたちの指導

・陸上競技部：県陸上競技場での試合後のスタンドのゴミ拾い

4. 実践事例の実績、実施による効果

（取組の実績）

・各教科授業担当、学級担任（LHR、総合的な学習の時間）部活動顧問、その他学校行事等に関わる全教職員で、「人間としての在り方生き方の自覚を深める～自らを磨き、高める生徒の育成をめざして～」進めたことがもっとも大きな実績である。全教職員の意識が高まり、すべての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級が保障された。その環境の中から、生徒自身が人権に関する知的理解・人権感覚・人権に関する意識・態度、実践力等を身に付けていった。生徒たちは「互いに支え合い、周囲の人たちに感謝する」態度を日頃の活動から学び、さらに実践する意欲を高めることができた。さまざまな場面の生徒の感想文からも伺える。（以下、一部抜粋）

「入学してから6ヶ月、楽しいと思っていた日もあるし、地獄のような日もあった。そんな中で支えてくれた親、先生、友達。・・クラスの中の空いた席について考える。その席でない人のものが置いてあるときがあるけど。席はいつでもこられるようにしておくべきと思う。」

「人は目に見えるものや結果だけで物事を判断しがちだけど、本当に大切なものは目に見えないところにあり、それを心の目、耳で感じる事が大切」

「損か得かは考えない。気づいたらとにかく行動」

5. 実践事例についての評価

（取組についての評価、及びその理由）

- ・学校教育全体を再検討し、教職員全体で取り組む体制が確立された。授業、特別活動、部活動、年次、進路等という生徒にとって、関わりの深い様々な場所で意識的に「心づくり」がなされた。生徒の日頃の言動に成果が見て取れる。
- ・保護者や地域住民からの反応もボランティア活動への感謝など、評価は高い。
- ・学校評価等で、評価の数値化を行うことは今後の課題である。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

山梨県立日川高等学校

教育活動全体を通じた取組となるよう、各教科の授業に「人間としての在り方生き方を深め、心を育てる」ことを基本に据えて、全教師「1人1指導案1実践」を実施する、各教科では不十分な部分を補うため、「LHR」と「総合的な学習の時間」を活用して「他者理解」、「自己理解」を目指した話し合い等の活動を全校で展開する、部活動が盛んな校風を生かし、学年を超えた部活動単位で地域に出て、人権教育が具体的な態度や行動に現れるように、「1部1ボランティア活動」(地域貢献 体操部による子供たちの指導、陸上競技部の競技場清掃、語学部による小学校等訪問交流など)を実施する、の3点を組み合わせた事例である。

全教職員の意識が高まり、生徒自身が人権に関する知的理解や意識、実践力等を身に付けてきた様子がうかがえる。

学校、地域、学校校種等が連携・協力して人権教育に取り組んだ示唆に富む事例である。